

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 27 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 相原尚之 職位： 講師

役 職：

### I ティーチング・ポートフォリオ

#### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

講義では獣医師として必要な獣医病理学に関する知識、技術を講義し、実習では講義で学んだ病変や疾患を実際の組織や病理解剖で経験させることで、獣医学における重要な疾患をトータルとして理解できるような教育を行う。研究室においては、専門ゼミや卒業論文の作成を通じて研究の計画立案と遂行、データ解析と考察を行う能力を伸ばし、それを的確にまとめ、発表する機会を設ける。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医病理学実習 I	獣医学科	必	4	149
獣医病理学実習 II	獣医学科	必	4	149
獣医病理学総論	獣医学科	必	3	135
獣医病理学各論 I	獣医学科	必	3	135
獣医病理学各論 II	獣医学科	必	4	149
総合獣医学	獣医学科	必	6	166
獣医学特論 I	獣医学科	必	5	4
卒業論文	獣医学科	必	6	4

#### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

講義・実習では、獣医師として必要な獣医病理学の知識・技術を持つことに加え、それを応用して自ら考え診断する実践能力を持った獣医師を養成することを理念とする。関連する分野の知識も動員して病理診断につなげる思考と、それを自分の言葉で説明できる能力を養成したい。

研究室では、自然発症症例の病理診断や卒業論文研究を通じて、技術の習得に加えて、研究計画の立案、計画的な遂行、データの解析、考察を主体的に行う能力を持った人材を養成することを理念とする。また、結果に基づきディスカッションする能力、専門的な内容を平明に説明するためのプレゼンテーション能力を養う機会を提供したい。

#### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

### 教育の目的と目標

- ・実習では、少人数毎に疾患罹患豚及び鶏の病理解剖を実施する機会を設け、その動物の病原体検査結果も提示している。肉眼所見、組織所見、病原体検査結果を総合して病性鑑定を行う機会を設けることで、獣医師としての実践能力を養成することを目標としている。
- ・実習の病理組織標本の観察では、スケッチと写真を組み合わせることにより、診断のポイントとなる所見を抜き出し、説明できるようになることを目標としている。
- ・講義では、1, 2 年次で受講する獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生化学の知識を基にして、細胞・組織の異常の病理学的な特徴や病態生理を体系的に理解することを目標としている。症例に応用できる実践的知識が得られる講義を心掛けている。
- ・研究室では、病理診断や卒業論文について、進捗管理、計画立案を、主体性、自律性をもって実施することにより、問題解決能力を養うことを目標としている。
- ・卒業論文では、計画や結果について自らの考えを説明すること、教員とのディスカッション、研究室での進捗報告会、学会での発表を通じて、課題発展能力とコミュニケーション・プレゼンテーション能力を養うことを目標としている。

### アクティブラーニングについての取組

- ・実習では、少人数毎に疾患罹患豚及び鶏の病理解剖を実施する機会を設けており、また、獣医伝染病学実習と連携して病原体検査結果も提示し、総合的な病性鑑定の機会を作った。
- ・実習・講義では、動画ファイルに常時アクセスできるようにした。講義ごとに小テストを行い、理解度を把握した。
- ・研究室では、研究の進捗報告会、英語論文抄読会、他大学との合同病理セミナー、学会への参加により、ディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けた。

### ICT の教育への活用

- ・講義・実習においては、オンデマンド型の動画配信を行った。自主学習のため常時講義ファイルを視聴できるようにした。理解度を把握するため、Google フォームで小テストを実施した。
- ・実習では、タブレット、スマートフォンを利用して、病理組織標本の写真を撮影し、スケッチと対応させて、理解を深める取り組みを実施した。
- ・実習では、病理解剖法について、動画、VR教材を作成し、実際に解剖することが難しかった犬・猫の解剖手技について学習する機会を設けた。
- ・研究室では、病理組織標本のバーチャルスライドを利用して、オンラインでの病理診断のトレーニングを行った。

## 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

### ①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握 (B)

③学生の自学自習を促すための工夫 (A)

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A)

⑤双方向授業への工夫 (B)

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①学生授業評価において、病理学実習では病理組織標本の写真を取りたいとの希望が多く寄せられた。これを反映させ、スマートフォンでの組織写真の写真撮影を取り入れるなどの改善を行っており、その後の授業評価でよい評価を受けた。また、実習中に病理解剖を実施することが困難であった犬・猫の病理解剖手技について、動画、VR教材を作成、活用した。これらは学生へのアンケートで高い評価を得た。

②理解度を把握するため、今年度から講義ごとに小テストを実施することにした。正解率の低い問題について次回講義時に解説するなど、試行中である。

③講義資料をできるだけ早く掲示すること、病理解剖手順などの予習用資料を掲示することで、自学自習のための教材を提供した。これらは復習用に常時閲覧可能とした。

④質問対応の時間を実習中に設定した。また、教員、ティーティングアシスタントが教室内を巡回し声をかけることで、質問しやすい環境を整備した。

⑤積極的に質問する学生は限られており、全学生との双方向性にはまだ課題がある。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

各項目の冒頭で、関連する国家試験の問題を紹介し、その項目のどこを重点的に理解すべきかを明示した。

## 5.学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

獣医病理学実習の授業評価では、病理標本の写真を撮りたいという希望があり、授業改善プログラムを活用し取り入れた。質問対応に時間を取ることにについて好意的な評価が多かったため、より質問しやすいよう、観察する学生の中を巡回するように心がけた。

② ①の結果はどうでしたか。

授業評価では、組織写真の撮影に関する42件のコメントのうち41件は取り組みに肯定的な意見だった。昨年度は、周囲と相談する機会が増える一方で、私語が多くなってしまったことが反省点であったため、教員が観察中の学生の中を巡回し、私語には厳格に対応することを行った。質問がしやすいとの意見があり、質問しやすい環境づくりは上手くいったと考えている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

病理標本の撮影は、学生の理解を深める助けになることから継続して実施したい。今後も周囲と相談することは奨励する一方で、不要な私語に厳格に対応したい。

## 6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

オンデマンド用に作成した授業動画は、復習用として受講期間中は常時閲覧可能とした。獣医病理学実習については、鏡顕問題の出題など理解の程度を具体的に測ることができる試験も設定したい。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

・授業評価では、獣医病理学実習 I（2022 年度前期）の設問 20 総合的に魅力的な授業だったかについて、3.75（講義平均 3.33）であり、コメントでも授業について好意的なものが多かった。

・獣医病理学実習の改善の取り組みは、教育改善プログラムに採択された。

・卒業論文は、いずれも学会で発表している。また、今年度の卒業論文優秀ポスター賞に 1 名が選出された。

## 7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

可能な限り研修に参加した。参加できない場合も動画視聴した。

## 8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的には、講義、実習の双方向性を高めるように努めたい。

長期的には、専門家としての実践能力を持つ人材を育成するため、知識や技術の習得に加えて、課題発展能力・問題解決能力を伸ばす教育に貢献したい。

## 9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

- ・シラバス
- ・授業改善プログラム採択
- ・授業評価